

## 専門科目の特徴

### 【幼児教育学科】

専門科目	特徴
教育原理	「人間とは何か」「教育とは何か」という視座から教育の基本概念を問い、教育の主な理念と思想を知るとともに、それらが歴史的背景の中でどのような教育および学校の営みとして現れてきたのかを理解する。
保育原理	子どもは温かい愛情に包まれた中で、いろいろな出来事や物・人との出会いを通じて自己の世界を広げて育っていく。その時の小さな出来事に意味が見出され時、子どもは自分が理解され受け入れられていると感じ、保育者自身もその出来事に大きな喜びを感じるものである。ここに保育の魅力があり、子どもの思いに寄り添いながら、共に遊びや生活を紡いでいくのが保育である。しかし保育には、正解はなく、その人の子ども観や発達観・保育観によっても子どもへの対応は違ってくるため、自分にとっての保育とは何かを考えることの必要性を学ぶ。
子ども家庭支援の心理学	心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解していく。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家庭関係について発達の視点から理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解するとともに、子どもの精神保健についても考えていく。
子どもの保健	疾病の症状や予防法を理解するためには、正常な状態の身体・生理・運動・精神機能を知ることが重要である。本講義では正常な子どもの成長・発達、子どもの疾病や事故の特徴を中心に学習する。得た知識を本講義や他科目の知識と統合し理解を深めることによって、保育者として子どもの健康・安全に貢献できることを期待する。
子どもの健康を安全	子どもの健康・安全管理を中心に実践的な視点で学習する。保健活動は、健康・安全管理と健康・安全教育で構成される。効果的な健康活動をめざして、本講義で学習する健康・安全管理と健康・安全教育をどうつなげると良いかを考えながら学習していく。
子ども家庭支援論	子どもの養育の第一義的な責任主体は家族であるが、子育て家庭を取り巻く社会状況の変化の中で家庭養育力の低下が指摘され、多様で複雑化した子育て家庭のニーズに応じた支援が必要となっていることを理解する。社会資源の活用や地域との連携を行い、子育て家庭が主体的に子どもと関わるができるように、保育の専門性を活かした支援の展開を学ぶ。

専門科目	特徴
幼児と健康	乳幼児の健康な心身の発達を促すための必要な知識、および幼児が自ら健康で安全な生活を作り出す生活習慣や態度を習得することの意義や重要性について学ぶ。また、乳幼児の体格や運動能力発達の現状と問題点を踏まえて、楽しい運動遊びを促すことや安全管理の方法を理解する。
幼児と人間関係	幼児を取り巻く社会状況の変化や教育課題を踏まえた上で、関係発達の視点からの幼児の人間関係の発達を理解することを目指す。視聴覚教材等から具体的な場面を想定し、グループワークを取り入れることで多面的な理解につなげる。
幼児と環境	領域「環境」の指導の基盤となる乳幼児と環境との関わりにおける専門的概念について視聴覚教材を活用し実践例を通じて学ぶ。特に、領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わり等の発達等について理解する。
幼児と言葉	領域「言葉」の指導の基盤となる、自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うために必要な専門的知識を身につける。幼児期の言語的発達過程を踏まえ、子どもとの言葉によるコミュニケーション、絵本や物語、言葉遊びなどの児童文化財に関して等、具体的な言葉に関わる知識・技能を身につける。
幼児と音楽	保育現場を想定してわらべうた遊び、楽器づくり、器楽合奏を通じた演習を行う。
幼児と造形	幼児の造形表現の本質を踏まえながら制作を体験することで、指導者として必要な造形力を養うとともに、子どもの造形遊びに関する様々な知識と表現技能を身につける。
保育実習 I	保育所や社会福祉施設（居住型施設）で実習を行い、子どもや利用者への理解を深めるとともに、施設の役割と機能、保育士の職務内容を理解する。
教育実習	幼稚園教育実習に臨んで、幼児とのふれあいや実習先の実習担当教諭の指導を通して、幼児を理解することによって、保育の実際を学習する。今後の教育実践に生かしていくため、実習期間中の教育実践の内容を記録して実習先の実習担当教諭等の指導を受ける。